

## Y. I. (社会システム学科・2 年次生)

### I. 留学レポート

#### ① 留学を目指した理由

私は2回生春学期の半年間、オレゴン州ポートランドへ留学しました。きっかけは、同志社女子大学に入学してから国際課を訪れたことと、TOEFL Camp に参加した事です。TOEFL Camp に参加した際に、セメスター語学留学について先輩方から話を伺って、特にアメリカに行きたいという気持ちが固まりました。アメリカを選んだ理由は、ボランティアプログラムが選択できるという点が大きなポイントとなりました。留学に行くことは、中学生の頃から考えており、高校生の時に短期留学でイギリスに行きました。その経験から私は、「長期留学に行く」という考えを持っていました。

#### ② 留学決定から出発までの準備期間

まず、必要な書類を用意することから始まりました。航空券の予約やビザの手続きなど、多少の時間を要するので、早い時期からの取り組みがとても大切と感じます。ビザ取得のため大使館・領事館まで出向く必要があるため、地方に住んでいる方はその日にちを確保することも重要です。事前学習については、ホームステイの方と少しでもコミュニケーションが取れるように、日常会話を練習しました。このように英会話の準備を進める中で、簡単な会話さえも知らないということに気がつきました。英単語の学習などと並行して、英語でドラマを見ることや、実際に外国人の方と話す機会を持つなど、日常会話の練習をすることは大切です。

#### ③ 現地到着後

空港には、語学学校の先生が迎えに来てくれました。ここで、他の学生たちとも初めて顔を合わせるのですが、少し緊張してあまり話すことができませんでした。先生ともうまく話せなかったことを覚えています。ホストファミリーが空港まで迎えに来てくれる学生と、ホストファミリーが来られないため、学校の見学に行く学生で分かれます。私は、学校の見学に行き、そこで自分が半年間通うキャンパスを見て回りました。今はキャンパスが移動してしまったのですが、私の通っていたメルルハーストという大学は、とても自然が豊かで落ち着いた雰囲気のあるキャンパスでした。学校初日にオリエンテーションがあり、そこでクラス分けテストを行います。クラス分けテストの結果によって、クラスのレベルや先生の指導も大きく違うので、このテストは重要です。

#### ④ 語学研修機関

##### ◆ 施設・環境・スタッフ

とても良いです。学校近くにある1つの道路沿いに、スーパーやスターバックス、美味しいレストランがあるので生活に困ることもあまりありませんし、自然に囲まれています。しかし、バスの本数はとても少ないです。現在のキャンパスは移動しているので分かりません

が、新しいキャンパスはダウンタウンが近いので遊ぶのに便利ですし交通機関も多いです。更に良い環境で過ごせるのではないかと思います。

#### ◆ 授業内容・課題・試験

授業は、リーディング、ライティング、リスニング&スピーキング、文法の4つの授業があります。金曜日は休講です。先生が本当に協力的で、放課後や休み時間を使って分からないことはなんでも教えてくれます。先生のお陰で、英語を話す練習もできました。とても良い点だと思います。課題が本当にたくさん出るので、毎日の積み重ねを作ることができます。少し大変ですがやりがいや成長を感じました。テストについては、1タームに2回の大きなテストと小テストがあります。クラスのレベルや先生によって異なりますが、テストは難しく、幅広いスキルが試されます。リーディングのテストで「ライティングか!」と思う程書かされることもあります。しっかりと授業に出席していれば、単位を落とすことはないと思います。

#### ◆ コミュニティサービス

私は、案内係として日本庭園と中国の庭園で働きました。とても良い経験になりました。日本でアルバイトをしていたので、海外と日本の労働環境を比べることができました。アメリカは、本当に人々がフレンドリーです。働いていても、お客さんや同僚の方の気持ちの良い声かけのお陰で頑張ることができました。英語を話す練習にもなりますし、働き方の違いを知ることができる良いきっかけになりました。この経験を活かして、帰国後は大阪駅で海外インフォメーションスタッフとして働いています。

#### ⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

—

#### ⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先にはお父さん、お母さん、叔父さん、3人の息子がいました。アメリカの家族とはこのようなものだ、と肌で感じることができました。将来はアメリカに住みたい、こんな家で子供を育てたい、と思えるような家庭でした。広々とした家や空間が、アメリカ人の性格を表しているようでした。日本は良いところがたくさんありますが、ホームステイをすることで、アメリカと日本のライフスタイルを比べることができました。子供たちとの会話は難しいですが、とても良い練習になりました。食事はとても健康的で、野菜中心の生活をしていました。マザーはヨガの会社を経営していて、家の中に小型ジムがありました。私が健康的な生活が送れるように気を配ってくれていました。時々、マザーの好きな映画を教えてもらい一緒に見ました。本当に貴重な経験ができたと思います。

#### ⑦ 長期休暇の過ごし方

1ターム目と2ターム目の間に休暇がありました。私は、友達と2人でロサンゼルスへ行きました。ディズニー、ハリウッド、ビバリーヒルズ、ビーチ、映画「ララランド」の撮影でも使用されたグリフィス展望台にも行きました。ロサンゼルスとオレゴンは同じ西海岸

ですが、州が違えば雰囲気も大きく変わるので感じました。例えば、オレゴンには歴史的、政治的な面から黒人の方が本当に少ないです。一方で、ロサンゼルスでは黒人の方やアジアの方をたくさん目にしました。アメリカ国内での違いや多民族性を感じました。アメリカの建国記念日は、ホストファミリーと花火を見て、美味しいご飯を食べて過ごしました。アメリカでは、祝日を主に家族と過ごしますし、祝日を祝う規模がとても大きいです。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

日々の生活がとても楽しかったです。学校の課題とのバランスをとりながら、放課後はよく他の国の友達とご飯を食べに行ったり、パーティに参加しました。アメリカ人はパーティが好きなので、私も時々参加しました。思い出に残っていることは、友達の家にあるプールで15人ほど集まってプールパーティをしたことと、ファミリーの子供の4歳の誕生日会です。他にもたくさん楽しい思い出を作りました。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

それほど辛かったことはありませんが、ファミリーの子供達の面倒を見るのがとても大変でした。子供達はとても元気なので、疲れているときは休みたくなりました。また、子供達は話すスピードが早いので意思疎通がうまくいかず大変でした。

### ③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

祝日は、恋人より家族で過ごすことが多いということです。例えば、建国記念日やクリスマス、イースターなどの主な祝日は、友達と遊ばずに家族や親戚でランチを取ります。アメリカの祝日は、キリスト教が関わっているものがほとんどなので、家族でお祈りをしたりします。

## III. 留学志望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って特に役立つもの

パソコンです。課題はほとんどパソコンで提出するからです。タブレット式を持って行くとUSBがさせないのでパソコンの方が良いです。軽くて暖かい服も持っていくと便利でした。春学期留学の場合、オレゴンの気候はとても良いのですが、朝晩は冷え込むため、ダウンなど持っていくことをお勧めします。

## ② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

授業で毎日課題が出ていたので、毎日勉強する習慣ができました。英語で授業を受けていたので、リスニング力は上がったと思います。ライティングでは、TOEFL に役立つエッセイの書き方などを教わったので、帰国してからのライティングの授業は受けやすくなりました。留学の成果を一番実感する瞬間は、日常会話が簡単に頭に浮かぶようになったことです。授業内で、プレゼンテーションを繰り返し練習したので、人前に出て英語を話すことにも慣れました。

## ③ これから留学を考えている方にアドバイス

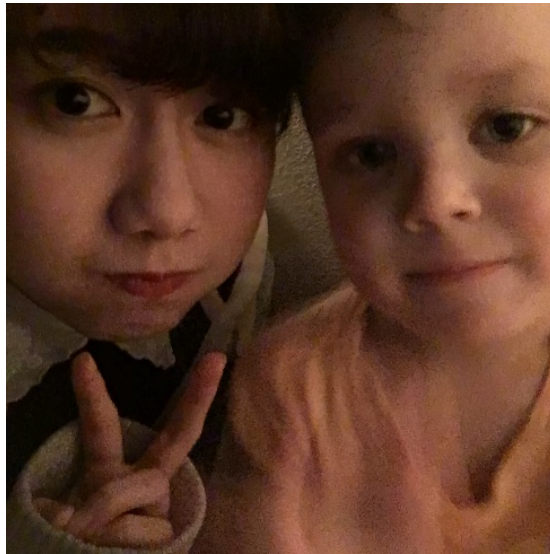
毎日与えられた課題や、自分で設定した課題をこなしていくことが大切です。勉強だけでなく、たくさんの国籍の友達を作り、コミュニケーションを取れるように自分から積極的に行動すれば、英語力は自然と身につきます。日本人の友達ができることも絶対にあると思うので、英語をできるだけ使うことを心がけてください。辛い時は、日本語で話しても良いと思います。

## IV. 将来の目標

### ① 今後の進路、将来の目標・夢

まだはっきりとは決まっていますが、海外に積極的に進出している企業に就職して、日本の良いサービスやモノを海外の方に知ってもらいたいです。卒業までに、TOEIC750点は取れるように勉強を継続していきます。帰国後、大阪駅で英語インフォメーションの契約社員として働き始めました。日本に観光に来てくださった海外の方に、日本の良いサービスを与える良い機会になると考えています。

V. 写真



ホストファミリーの三男です。4歳の誕生日に参加しました。



ホストファミリーと私が一緒に眠り込んでしまう写真です。



家の近くの街、レイクオスウェゴの街並みです。私のお気に入りの街です。



ポートランドのチューリップフェスティバルに参加したときに撮ってもらいました。



ロサンゼルスへのディズニーへ行った時にミニーと撮りました。

## K. K.（社会システム学科・2 年次生）

### I. 留学レポート

#### ① 留学を目指した理由

私が留学をしようと決めた理由は、大学生活で英語のスキルアップを入学時から目標にしていたからです。高校生の時に行った 2 週間の海外研修は、初めての体験による緊張から、英語での会話やコミュニケーションにかなりつまずきました。その悔しい思いをバネに、大学生活で海外留学のリベンジと、興味のある英語スキル、特に TOEIC の点数を上げたかったので、この機会を使って留学しようと決めました。

#### ② 留学決定から出発までの準備期間

留学前は、動画サイトでシチュエーションごとに役立つ英会話フレーズをメモしたり、英語での日記を出発前から始め、習慣づけました。ビザの申請は、YouTube の動画を最後まできちんと見てから申請作業をするべきだと学びました。米国大使館を訪れた際も、手荷物検査が厳しくて、緊張する場面が何度ありました。ビザ申請の手続き過程や、親にこの留学制度を説明することは、大事な留学準備の一つだと気づかされました。自分の不注意さに気づけたのも、この留学から得た成長点です。

#### ③ 現地到着後

PIA のオリエンテーションでクラスメートとなる学生たちと対面したのですが、想像以上に日本人が多かったです。しかし、多くの日本人学生の方も英語力が高くて、初日から刺激を与えられたことが印象的です。先生方はユーモアがありフレンドリーで、とても明るい方が多かったです。

#### ④ 語学研修機関

##### ◆ 施設・環境・スタッフ

メリルハースト大学のキャンパスは、アンティーク調の教室が多くて綺麗でした。建物は赤レンガ、外は芝生で覆われ、野生の鹿やウサギなども現れるほど自然豊かなところで、居心地がよかったです。

##### ◆ 授業内容・課題・試験

授業は、本当に質問しやすい環境でした。みんなに発言権があり、質問したら先生は笑顔で受け取り、毎回「いい質問だね」や「質問してくれてありがとう」と言ってくれるので、授業が楽しくなりました。授業では毎日大量の課題が出され、2 週間に 1 度はエッセイを書いていました。プレゼンテーションも回数を重ねていくうちに、練習を十分にしていた時、していない時の完成度の差が大きく、練習の大切さや何度も繰り返すことの大切さを知りました。プレゼンテーションの後に、自分での評価を日記に書いていたので、それを振り返りより良いものを作ろうとやる気に繋がりました。

## ◆ コミュニティーサービス

私は、ホームレスシェルターでボランティアとして働きました。コミュニティーサービスは、ボランティア先の選択肢も多くて選ぶのは大変でした。しかし、私はこの施設を選んでポートランドの社会的問題に向き合えました。ホームレスシェルターでのボランティア活動は、私の中で大切な留学の思い出です。たくさんのスタッフさんやボランティアスタッフさんに、この仕事をしている理由や仕事の思い出を聞くことができ、尊敬できる方々に会うことができました。この方達のように仕事ができるといいなあと思い、私の将来の目標ややりたいことが見つかった場所になりました。さらに、コミュニティーサービスのための事前授業では、ビジネス英語やアメリカ社会について学べる点でも良い学習ができました。

### ⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

コミュニティーサービス以外では、学校の先生が提案してくれたボランティア活動に参加しました。6人のメンバーと一緒に、小学校の庭を綺麗にしました。実際、ハードワークできつかったです。久しぶりに畑仕事のようなことをしました。しかし、そこでもまた新しい人とも出会えるし、様々な人からポートランドの情報を聞くことができました。

### ⑥ 現地での住まいについて

私のホストファミリーは、家族愛が強い家族でした。私もその家族の一員のように過ごしました。ほぼ毎日一緒にディナー、その後みんなで映画鑑賞、ホストは私に映画の背景を説明してくれたり、アイスクリームを食べたり。この時間が、私がこの家族と過ごす中で一番好きな時間でした。

### ⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休みは、大都会ロサンゼルスに行き、アメリカのダイバーシティを実感しました。人種の数も雰囲気も全てが新しい体験で、とても楽しい思い出ができました。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

全てが大切な思い出ですが、一番思い出に残っていることは、ホームレスシェルターでのボランティア活動です。ポートランドの深刻な問題の一つに自分が関わっていることや、助けが必要な人へのサポートやコミュニケーションを取ることは難しい面もありましたが、将来の目標にも繋がる良い刺激になりました。コミュニケーションを取る中で、シェルターを訪れた方から「とても会話が楽しかった」や「笑顔が素敵ね」と言ってもらい、「私がお方々に元気を与えた」、「こんな私でも人を元気づけられるのだ」と思うことができました。この経験から私は、将来助けが必要な人々を私が助けたい、それが私の仕事の大きなモチベーションであるのだと気づくことができ、将来の夢を見つけることができました。



## ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

辛かったことは、しいて言えば、ホストファミリーのご家族と会う時の緊張感は何度経験しても慣れませんでした。家族が集まるディナーでは、会話にほとんど入れず、孤独に感じることもありました。それでも、私の家族は私に話を振ってくれました。

## ③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

カウンセラーの方からアドバイスをいただいたのですが、日本人が一番綺麗好きと言うことです。ホームステイ先のキッチンが散らかることもよくあり、ホストが高齢のため、よく私が率先して掃除をしていました。それから、近所の方々ととても親密な関係だということ。一度、隣の家の方が同じストリートの方を全員誘い、ピクニックパーティーを開いたので参加させてもらいました。私は、ステイ先の犬とよく散歩をしていたので、多くの方が私の顔を覚えていてくれて、会話が弾むきっかけとなりました。みんなで情報共有や仲を深め、日本にはないご近所さんとの強い繋がりに驚きました。

## Ⅲ. 留学志望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って特に役立ったもの

パソコンは宿題をするのに必須です。学校の提出物や授業のパワーポイントなども、グーグルドライブを使うので使い方も覚えることができ、たくさん利用しました。春のこの時期の夜は冷えるので、フリースなどの暖かい上着 1 枚も必要です。洗濯機・乾燥機は、日本のものより大きい上に服も傷つく可能性があるため、大きい洗濯ネットは必須です。

### ② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学後は英語力に自信が付き、同女での授業でも発言や質問が多くなったねと友達に言われました。ネイティヴスピーカーの方との授業は、授業の中でも楽しみになり、ただ授業に参加するだけでなく、自分から質問などをして授業を楽しもうと思いました。外国人と話す機会があった時は、前より楽しめるようになり、もっと関わっていきたいと思いました。TOEIC の点数も伸び、結果に出た喜びも自信になるし、これからも英語学習を続けていこうと思いました。

### ③ これから留学を考えている方にアドバイス

この留学経験は、自分にとっての一つの分岐点でした。勉学や生活スタイルが 5 か月の間、日本にいた時と完璧に違っていました。勉強は毎日行い、新しい出会いと経験が毎週末ありました。留学を通じた英語の勉強は、自分の自信に繋がり、新しい人に会う楽しさや人との繋がりの大切さを知り、ここで経験したことは、日本でも続けていこうと思えた機会になりました。留学経験は、自分を見つめられる・変えることができると思います。

#### IV. 将来の目標

##### ① 今後の進路、将来の目標・夢

私は、助けが必要な人々を助ける仕事に就きたいと思っています。それは、ホームレスシェルターでの出会いがかなり影響しました。人を助ける仕事は、私の一番のモチベーションだと発見できました。英語は、私自身が対応できる人の幅を広げることができます。具体的な職種はまだ模索中ですが、私がやりたいことを発見できたことは、私の中で、将来に繋がる大きな一歩になったと思います。

#### V. 写真



ホストファミリーと過ごした家。

ホストマザーはアンティーク家具が好きで、家具・皿全て美しかったです。

この家の前でガレージセールもしました。



ポートランドで有名な古着屋です。

暇で時間がある時は、ここに2時間は滞在しました。



私がほぼ毎日散歩に行っていた愛犬のブローディです。  
夕方6時になると私に「散歩に行こう」と吠えてくるのがとても可愛かったです。



ホストマザーが私の友達も連れてチューリップ畑に行ってくれました。  
天気にも恵まれ、こんなにも花を見たのは初めてでした。